

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年3月27日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677600092
法人名	社会福祉法人幸伸会
事業所名	グループホーム青山荘
所在地	鹿児島県肝属郡錦江町城元3724-1 (電話) 0994-22-3389
自己評価作成日	平成30年2月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成30年3月12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・空気の澄んだ自然の中で、開設者が植樹した多くの桜の木々に囲まれていて満開がとても楽しみなホームです。小さい畑で野菜を栽培し、花壇に花を植え季節の移り変わりを肌で感じていただけるようにしています。
- ・共有のスペースは明るく、季節を感じてもらえる設えや安心して生活して頂けるよう、畳台やソファーで思い思いに活動や寛げる集いの場を確保している。
- ・地域住民とは多少離れているが、母体である特別養護老人ホームが同敷地内にあることで利用者様は季節の行事や馴染みの方々との関係を保ちながら生活ができる。職員は他職種との連携や相談、協力をもらい安心して仕事ができる。
- ・役場、病院等主催の会議や施設内外の研修へ参加し、日々のケアに役立てるようになっている。
- ・ホーム利用者同士、ご家族、地域の人々、主治医、訪問看護ステーション、隣接する特別養護老人ホームの利用者、看護師、職員、外部レク講師、運営推進委員など地域の多くの人々で寄り合い支え合える開放的なホームを目指している。
- ・体験学習の受け入れも行い、地域の小学校中学校の生徒にグループホームの役割や認知症への理解を啓発している。
- ・毎年職員が普通救命講習を受講し、平成29年8月19日付けで「市民救命士のいる事業所」と認定されました。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、町郊外の閑静で自然豊かな山間部に、同法人の特別養護老人ホームと共に設置されており、広大な敷地には多種の樹木や草花が植えられ、四季を感じながら平穏に生活できる環境である。開設以来、地域との円滑な交流に努めてきており、法人主催の「夕涼み会」「クリスマス会」等には多くの家族や地域住民の参加が得られている。また、町文化祭や障害者施設のイベントに参加し、小・中学生のワークキャンプや楽器演奏・手芸のボランティア、友人知人の来訪等を積極的に受け入れ、買い物や通院時に地域の人々と会話し日常的に農作物を頂くなど、地域に密着した交流が図られている。

管理者及び職員は、理念に沿って利用者の誇りや尊厳を大切にしながら思いや意向の把握に努め、常に利用者主体の自由で平穏な暮らしの支援に取り組んでいる。利用者や家族からの意見や要望に対しては、職員全体で協議して積極的に改善に取り組むなど、常に、より良いサービスの実践を目指しており、利用者や家族の信頼や安心感に繋がっている。

管理者は、職員が日頃から気軽に意見が言える雰囲気づくりに努め、意向や要望等を把握して業務の改善やサービスの質の向上を図っており、職員との信頼関係や協力的体制が構築されている。

また、職員のスキルアップのための研修の実施や資格取得に対する助言・指導を積極的に行い、勤務シフトの作成や外部研修の受講については可能な限り本人の意向を反映するなど、働きやすい職場環境の整備に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念、目標をリビングに掲示。朝礼時にリーダーが理念や心構えを読み上げることで共有し、職員が統一した意識でケアの実践に取り組んでいる。	平成27年に全員で見直して地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を、玄関やリビング、事務室に掲示し、朝礼時の唱和や日常的にケアの振り返りを行って、理念の意義を共有している。理念に沿って、利用者の尊厳を大切にしながら想いの把握に努め、楽しく生きる喜びと安心した生活が営めるような支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域への買い物や保育園や学校関係との交流、法人全体の夕涼み会、敬老会、運動会、クリスマス会、家族会など隣接の特別養護老人ホームやショートステイ利用者との交流を通し地域の人々との繋がりを保てるようにしている。	町主催の文化祭に作品を出展して見学に行き、また、障害者施設のイベントに参加している。法人主催の「夕涼み会」「クリスマス会」等には多くの家族や地域住民の参加があり、幼稚園児及びショートステイの利用者との交流や小・中学生のワークキャンプ、手芸、楽器演奏のボランティア、友人知人の来訪等を積極的に受け入れている。また、日頃の買い物や散歩時に地域の人々と会話し、農産物を頂くなど円滑な交流が図られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	学校からの体験学習、ワークキャンプを毎年受け入れて、ホームの役割りや認知症を分かり易く説明、指導をしている。ホーム、個人の買い物は地域で生産された物を扱う商店に買いに行くようにして関わりを持ってもらい認知症への理解や啓発に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	活動報告だけではなく利用者の介護度の変化、事故やヒヤリ報告を行い、包括、民生委員、家族の立場からの意見、アドバイス、要望等情報交換を日々の運営に役立て改善に取り組んでいる。	会議は利用者、家族、地域住民、民生委員、地域包括支援センター職員等が参加して定期的に開催し、ホームの運営や利用者の現況、ヒヤリハット等の報告、高齢者福祉や認知症ケアに関する研修や意見交換を実施している。委員からは高齢者の食事や災害時の対応、介護保険に関する質問や意見等が出されており、会議の内容は議事録で共有してサービスの向上や業務の改善に活かしている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	錦江町認知症初期集中支援推進事業検討委員として管理者は会議に参加、介護職員も研修に参加、包括支援センターからは運営推進会議への参加をもらい町からの情報も定期的にいただき運営に役立てている。	町担当者には運営推進会議に出席していただくことでホームの状況を理解してもらっており、入退所や認定更新の手続き等のほか、ホームの運営やケアに関する各種制度の相談や意見交換するなど協力関係が築かれている。管理者は、「認知症初期集中支援推進事業」の委員を町から委嘱されており、医師や保健師、ケアマネージャー、訪問看護師等と頻りに意見交換をし、また、町や社協主催の会合や研修会にも積極的に出席してサービス向上に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月の会議で事例を取り上げ、不適切なケアの見直しを行うことで身体拘束ゼロのケア実践へ繋げるように努めている。法人事業所全体で開催するセクション会議に管理者が出席し会議の内容を報告している。この会議では、相談や協力体制の要請も行うようにしている。困難事例があれば法人全体で意見をもらう体制がある。	身体拘束や権利擁護については、法人全体で定期的に研修を実施し、毎月の職員会議や身体拘束改善委員会で振り返りを実施して、拘束のないケアに努めている。昼間は居室や玄関等の施錠は行わず、職員は連携して見守りや寄り添いで利用者の思いを把握し、安全で自由な暮らしの支援に取り組んでいる。外出したがる利用者には、一緒に散歩するなど工夫して安定を図っており、隣接の特別養護老人ホームの理解と協力が得られている。言葉による拘束については、日々のケアの中で職員相互に注意し合い、意見交換も行って改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内勉強会への参加、毎月の身体拘束廃止委員会や職員会議にて拘束、虐待による弊害を理解している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	高齢者虐待同様職員会議で学ぶ機会があり、利用者の尊厳を意識し、チームで仕事に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前の本人との面会で対象者であるかの確認。ホームへの見学を勧め、実際に雰囲気を見て頂くことで入所に対する不安の軽減に努める。契約時には重要事項に沿って詳しい説明と随時で質問を受けながらご家族の十分な理解の確認を行ないながら契約するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者のつぶやきに耳を傾け思いを聴くようにし、面会時には必要に応じて家族につぶやきをお知らせしている。面会以外電話や家族会、交流行事、運営推進会議で意見、要望、相談を随時受けるようにして内容に応じ早期改善策の検討を職員みんなで図るよう柔軟に対応している。家族以外の方でも自由に意見がいただけるよう玄関に意見箱の設置をしている。	入所時に利用者や家族の要望・意見などを聞き取り、その後は利用者の思いを日常会話や仕草等で理解に努め、また、家族とは来訪時や電話、運営推進会議、家族会等で意見要望を把握している。遠方の家族には情報誌「やわらぎ」の送付や電話で利用者の状況を伝え、意見を貰うように努めている。出された意見等は申し送りや職員会議等で共有を図り、職員全員で話し合っ改善に取り組んでおり、本人及び家族にも報告して理解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の朝礼では、法人全体の予定やホームの予定の周知、随時必要に応じミーティングでの意見も大切に連絡ノートの活用で情報の共有を図り、職員会議で協議した意見等は統一したケアにつなげている。管理者は個人面談にて意見を求めている。	管理者は、日頃より話しやすい雰囲気作りに努め、職員会議や日々の申し送り、業務の中、個別面談等で、職員の悩みや業務に関する意見、要望等を把握して業務改善やサービス向上を図っている。勤務シフトの作成や外部研修受講等については、可能な限り職員の希望を反映させ、また職員のスキルアップのための施設内研修に取り組み、資格取得に対しても積極的に助言指導する等、働きやすい職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は個々の仕事に関する悩みや目標に対する取り組み状況など、必要に応じて随時アドバイスや職場環境を整えるよう勤めている。資格取得も応援し、試験にチャレンジできるよう配慮している。 今年度事業拡大したが、法人全体で離職者もあり人材不足の状況。業務の見直しで少人数でも効率の良い仕事が行えるようにしたが、求人募集を出し早急に配置の希望をお願いしている。		
13		○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については希望を申し出て受講する機会が平等にあるが、経験年数で研修内容を検討している。外部研修、施設内研修勉強会、感染症対策委員会での取り組みでは、吐物処理の仕方を全職員が実習、身体拘束廃止委員会では報告書作成の勉強会、緊急時の対応ができるよう今年も救命講習（3時間）を消防署に行き受講している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>錦江町、包括、医療機関が開催する勉強会や交流会の参加で他事業所との情報や意見交換のため参加している。</p>		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始以前に、訪問させてもらい関係機関からの情報を基に、どのような人なのか背景に認知症の症状が生活のどのような場面で不安や困りごとに繋がるのか面会を行い確認するようにしている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>希望でのホーム見学を勧め、ホームの経営方針を踏まえ、ご家族の相談やニーズを聞き要望に対応できるかの検討をした上で入居に関する説明を行うようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>担当ケアマネージャーへグループホーム対象者（認知症の診断）であるのか、緊急性はどうかなどの情報収集をして本人家族が安心して受けられるサービスを助言する。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	活動を共にし、意識してその時々の本人の言葉「つぶやき」を大切に聴き、表情や行動で想いを察することができるようキーワードを入れ書き込み、職員・主治医・訪問看護師の情報の共有に努め利用者を理解している。敬う中、時には友人や子供のように接したりしながら共に生活している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の願いや困りごととは何かを確認し合い、できる限り家族の役割として繋がり大切に協力できることはお願いして共に支えていけるように働きかけ関わりを保って頂くようにして面会のきっかけ作りに努めている。季刊誌で生活の様子や法人全体の情報などお知らせしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活の延長として、可能な限り家族とのかかりつけの病院受診や自宅への帰省援助をもらう。また、地域のお店への買い物、特別養護老人ホーム青山荘の利用者、ショートステイ利用者、他に地域の方々との夕涼み会や運動会等の行事を通し足を運んで下さる状況です。	利用開始時に本人や家族、関係者から利用者の入所前の生活状況を把握し、馴染みの環境についての情報を共有している。家族や友人の来訪時にはゆっくり過ごせるように配慮し、本人の希望に沿って墓参、買い物、一時帰宅、通院等を家族の協力を得ながら支援している。また、遠方の家族には利用者の状況を情報誌や電話等で伝え、手紙の取り次ぎも支援するなど、馴染みの人や場との関係継続に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テレビを囲みリハビリ体操や会話弾む相性の良い安心して寄り添い集うソファ、協働できる畳台、落ち着いて食べられる食卓の配置など利用者同士が孤立しないでくつろぐ環境を整えている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用中止後も本人への面会や家族との相談支援にも対応、気兼ねなくホームへの訪問や運営へのご協力も頂いている状況がある。葬儀への出席もさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員同士、訪問看護師で収集した気づきや情報は申し送りや記録で共有し、できる限り希望や意向に沿えるように努力しているが、困難な場合はご家族や主治医、訪問看護ステーション、法人全体を含め他職種で相談検討して対応している。	日頃の関わりの中での対話や表情、仕草、独自のサイン等で利用者の思いや意向の理解に努め、また、家族からの意見を参考に思いを汲みとり、「申し送り」や「職員会議」で共有を図っている。利用者にとって最善のケアを目指して支援に取り組んでおり、余暇時間の過ごし方や、ぬり絵や書道、パズルなど趣味の取り組みについても、利用者の身体状況等に配慮しながら、可能な限り希望に添って個別の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族以外の親戚やお友達の面会や主治医、民生委員、訪問調査員、商店街などからの情報も頂いている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の能力や意欲で家事の役割、GHの日々レクではパズル、かるた、ドリル、塗り絵、体操、カラオケなど選んで参加、毎月おやつ作り、書道、カレー作りの日を設け継続参加してもらい体調等把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との電話や面会での状況報告や相談、受診時の主治医への情報提供、訪問看護師からのアドバイスを担当者は評価、職員間でのミーティングや職員会議を利用し検討事項など話し合い介護計画を作成している。	本人及び家族の希望や主治医や訪問看護師からの意見、助言等を十分に把握し、定期的にモニタリングを実施して、具体的にわかりやすい介護計画を作成している。ケアの経過は「ケアプラン実行表」や「介護支援経過記録」等に詳細に記録され、利用者の状態変化に対しても実態に添って計画の作成や修正を行って改善に向けた支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ホーム独自の記録書式で1週間分が見れるようにして、生活の様子、健康状態など詳しく記入するようにして職員が把握しやすいようにしている。訪問看護ステーションの看護師も活用、受診時に医師への報告でも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特別養護老人ホームや居宅支援事業所などの他職種との連携協力が得られている為、入院での利用中止時は、退院時の状況で法人事業所で柔軟に受け入れるようにして、安心して治療を受けて頂くよう説明している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院関係、訪問看護ステーション、運営推進委員（町の担当者、民生委員、家族代表者）や外部講師（レク、手芸、理学療法士）消防署、学校関係者などあらゆる立場の人との交流を図るようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、本人ご家族の意向を尊重しており、職員援助以外に必要な応じ適切な医療が受けられるよう情報提供書の準備でご家族の受診同行の協力を得て、主治医との連携や相談もできている。	利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受療を支援しており、殆どどの利用者が入所前の医療機関での受診を継続している。定期的な通院や他科受診等は家族と職員が協力して同行し、訪問看護も定期的実施されており、病状や受診結果については家族にも密に報告して連携を図っている。利用者の病状や受診結果は「介護支援経過記録」「連絡ノート」等で情報を共有し、各医療機関との連携体制も構築されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1回の訪問時に個々の情報・状態について気になる点は連絡を密に行い受診の対応をすぐにできるようにしている。また、急を要する場合には併設の特別養護老人ホームの看護師に対応していただくようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と情報を共有し、治療計画など把握できるようにしている。病院とは入院時に担当看護師やソーシャルワーカーへ情報提供を行い、入院後こまめに連絡を取りあうようにしている。治療の経過により円滑な早期退院ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用開始時にホームの看取り介護の指針の説明で、希望を伺い同意は得ているが、まだ看取りの事例は無い。主治医、訪問看護ステーション等の連携を上手く図る為情報や研修等参加して体制を整え希望に添えるよう取り組む必要がある。</p>	<p>重度化や終末期の対応は、入所時に本人や家族に指針等で説明して同意を得ている。利用者が重度化した時点で、主治医から病状が説明され、職員や関係者、家族が十分な話し合いを繰り返して、可能な限り家族が希望する支援に取り組んでおり、隣接の特別養護老人ホームや訪問看護ステーションとの協力体制を構築している。重度化や看取りに対する職員の不安の軽減やスキルアップを図る資料の配布や外部研修等に参加している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>頻度は少なく、実践力については全ての職員で同じようにとはいかないも、毎年地域消防署にて普通救命講習を受講している。夜勤帯は一人の対応で不安な為、訪問看護ステーションとの連携及び状態によっては併設の特養への連絡で応援が駆けつける体制がある。</p>	/	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>夜間火災を想定した自主防災訓練（通報訓練）を通して、意識の向上に努めている。消防署立会いでの避難・消火訓練を2月実施予定。自動通報装置、スプリンクラーの設備もある。災害時においても、近隣住宅は無いが、同敷地内特養の応援体制が得られることで安心できる。非常時に備え保存食料や水、関連備品等が準備してある。隣接の特別養護老人ホームからの支援も可能である。</p>	<p>消防署と連携して、火災や地震災害を想定した通報、避難・消火訓練を特別養護老人ホームと合同で実施しており、消防署職員による災害に関する講話や研修も行われている。特に職員一人勤務となる夜間災害に対する意識は高く、通報や避難経路の確認等の自主訓練も毎月実施し、また、報道された災害等を事例に意見交換して認識を深めている。職員は毎年1回普通救命講習会を受講し、「市民救命士のいる事務所」に認定されている。スプリンクラーや自動通報装置等を完備し、災害時の食料や飲料水の備蓄、懐中電灯や卓上コンロ等も整備しており、隣接の特別養護老人ホームとの協力体制も築かれている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	おひとりおひとりを尊重した声かけや対応に努め、プライバシーやプライドを傷つけないよう配慮している。毎月の身体拘束廃止委員会等で確保されているかの確認をしている。援助の場面によっては、適宜伝わり易い方言も使いながら、穏やかに暮らせる環境を随時話し合い整えるように心がけている。	日頃から利用者の尊厳や人格を尊重したケアに努めており、プライバシー保護に関する資料や日頃のケアの振り返りを基に意見交換して意識を高めている。排泄や入浴、更衣、居室への入室時の言葉かけやケアに際しては、プライドや羞恥心等に細かに配慮して取り組んでいる。居室やトイレ、浴室はプライバシーが確保された構造で、台帳等の管理も適切に取り扱われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望をなかなか表現できない方もいらっしゃるので、傾聴に努め難いが表情も含め思いや気持ちを察するようにしている。どうしたいのか決められるような働きかけをするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ、個々の希望に添えるよう趣味活動も選択してもらいながら、利用者の落ち着いた時間や自主的にして頂ける関わりに努めた。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご自分で衣類を選び更衣されている方も多し。おしゃれについては、その方らしい好みの物を身につけている。普段着と外出時の服は変え、職員もチェックして差し上げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	人員の配置等で食事は昼、夜は外部依頼しているが、医師指示の糖尿食の提供ができています。家族の方との協力で定期受診時の外食や自宅に帰省しての食事、外泊での家族団欒での食事ができている方もいる。随時での誕生会のおやつ作りでは、喜んで頂いている。嗜好調査も栄養士と協力し行い、食事のニューに反映する様にしている。	利用者の嗜好調査を年1回実施し、法人の栄養士が利用者の疾病や身体状況に配慮したメニューを作成し、食事の形態、治療食もプランに沿って調理され、嗜好に伴う代替品や栄養補助食品も活用している。朝食はホームで調理し、昼食と夕食は同法人の特別養護老人ホームから届けられて、利用者と職員と一緒に歓談しながら食事している。毎月実施の「カレーの日」「おやつの日」には利用者も一緒に調理し、園庭での花見や「たこ焼き」、クリスマスのケーキづくり、家族との会食等、食事が楽しみなよう工夫し、家族との外食も実施されている。利用者毎に食事の摂取量や水分補給、服薬等に配慮し、口腔ケアもプランに沿って支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量はケアプラン実行表に記載することで時間の経過でその人に合った時間での支援が行えている。個々の状態に合わせた食事形態、糖尿病食などにより、バランスの良い食事が提供できている。低栄養の方には栄養補助食品も加えている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のその方に応じた口腔ケア支援。夜間は義歯洗浄剤を使用し除菌を実施。残歯のある方は磨き残しがないか仕上げの援助を行うようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の食事水分の摂取状況から、介護度の高い方もトイレで排泄ができる援助に努めている。排泄動作がし易い布パンツや服選びに気を配り、個々の能力に応じ、おむつに頼らないよう活動前後に声かけや誘導して皮膚の保清にも努めている。	利用者毎の排泄パターンを把握し、食事の摂取状況や水分補給等に配慮しながら可能な限りトイレでの排泄を支援している。支援に際しては羞恥心や不安の軽減に細かに気遣い、利用者の状態に添って衣服の選択や排泄用品を工夫しており、便秘の予防にも努めている。また、町事業の「おむつ券」の交付も受けて、利用者の経費の軽減を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便へ、おやつや食材にさつま芋等食物繊維を多く含む物、乳製品等の提供や体操や水分摂取せるよう努めている。便を柔らかくする薬（マグミット錠）は排便行為の予防や不快感がないよう排便の状況で医師の指示のもと量を調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	お一人おひとりの気分に沿って、無理せずに「気持ち良かった」と思ってもらえるよう、その方の時間・体調など考慮して、できることはして頂き支援が必要なところは介助させて頂いている。	利用者の健康状態に配慮して足浴や清拭も含め、隔日の入浴を基本としているほか、排泄の失敗等に対しては即時に清拭や入浴で清潔を保持している。入浴の日時や温度等も利用者の希望に添って柔軟に対応し、皮膚疾患の手当も行いながら、ゆっくりと入浴を楽しめるように個別で取り組んでおり、職員と利用者の親密なコミュニケーションの場にもなっている。入浴を渋る利用者には無理強いしないで、時間やスタッフの変更、声掛け等を工夫して、利用者の意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動の取り入れや、個々の生活のリズムに合わせ、ベッドやソファでゆっくりしてもらう時間も設けている。夜間眠れない時は安心して頂けるように、一緒に寄り添い話を聞いて差し上げたり、好むテレビ番組を見てもらうなどの対応をしている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方服用の経過で生活に変化や支障をきたす場合は、職員間、訪看との情報の共有を図り相談し、医師へ報告をするようにして薬の相談をしている。変更時は必ず職員間での申し送りをして確認している。薬については薬剤師に情報を頂くこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望に沿って外気浴や散歩、体操、新聞の提供、レクなどお一人おひとりの気分転換が図れるように努めている。役割として自主的に家事に参加される方への準備支援ができています。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日直ぐに戸外へという希望は難しいが希望に添えるよう努力はしている。家族の方へ本人の思いや希望はお伝えし、協力が得られるように努めている。	利用者の外出に対する意向は、日頃の関わりの中で把握に努めている。健康状態や天候等に配慮しながら、初詣や季節毎の花見、ドライブ等を計画し、他施設のイベントや町主催の文化祭等にも出かけて地域の人々との交流を楽しんでいる。また、日常的にホーム周辺の草花を愛でながら散歩する等、利用者の意向に添って外出の支援に取り組んでおり、歩行が困難な利用者には車椅子やリフト車を活用している。一時帰宅に際しては、利用者の状態に合わせて、ケアの注意点等のメモを家族に渡すなど安全に配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を所持している方は、買い物や受診料でお金の支払いをして頂いて、金銭管理も本人にして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望では電話をつなぎ会話して頂く、遠方のご家族からも電話や贈り物が届きます。電話や手紙でのお礼。それぞれの家庭に年賀はがきを送付している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭には季節の花や野菜、玄関にはホームの活動紹介や観葉植物、共有スペースには季節に応じた飾りや花、手芸クラブでの作品、行事予定のお知らせの掲示などを行っている。加湿器や空調設備で快適に過ごせるようにしている。不快な臭いなど無いよう換気も午前午後で行っています。ソファは体操やテレビを見ての談話が弾む場所でもある。	玄関やリビング、廊下等はゆとりがあり明るく、室温や湿度・換気、衛生、整理整頓等に十分な配慮がされている。随所に季節の生花や手作りの作品、習字、イベント時の写真等が飾られ、テーブルセットやテレビ、ソファ置台等が利用者の動線や利便性を考慮して設置されて、和やかでゆったりと寛げる環境になっている。窓からは園庭の樹木や草花、菜園等が望め、利用者は日常的に四季を感じながら好みの場所で日光浴や談笑を楽しむなど快適に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではお一人おひとりの性格や認知症による行動などもある為、気の合う同士で過ごせるようなテーブルの配置や居場所作りに配慮しているが、なかなか共有空間では独りになれる場所作りは難しく、家族の面会時などある場合は自室で家族と過ごせるよう心掛けている。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや時計の設置、本人が過ごしやすいよう、随時本人や家族の要望に沿って居室内のベッドやタンスの配置や使い慣れたものなど家族の協力を得て環境作りに心がけている。	各居室は、フローリングの床に腰高窓又は、掃出し窓の構造で、エアコン、ベッド、洗面台、クローゼットが備えられ、異臭や空調、清掃等衛生面に十分配慮し、利用者の状態に応じてベッドの高さや、畳に布団を敷くなど、利用者が安心安全で快適に過ごせる環境になるよう工夫している。自宅同様に落ち着いた日々が過ごせるように、使い慣れた寝具や、テレビ、家族写真、小物等を自由に持ち込み、また自分の作品等も飾って、その人らしい和やかな雰囲気のある居室となっている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>目に障害のある方もいて、場所が分かるように個室の名前や便所の表示は目線で大きめの表示がある。電気のスイッチが分かるような工夫や個々の残存機能を活用し立位が取れる方には、ベッドにはスイングアームバーを設置して安全に立位保持ができるようにしたり、転落の予測される方についてはベッドの高さを低い高さに調整するなどすることで転落時の衝撃緩和を図れるよう安全面に配慮した環境整備に努めている。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない